

学校 教育 目標	「自らがやく子く自立」 とともにかがやく子く共生」 ～自己を高め、環境(ひと・まち・自然)とかかわりながら共に生きようとする子を育てる ○心と体をすこやかに育み、自分の生き方と生活をつくり出す子 ○自立心を持ち、学習や活動に主体的に取り組む子 ○共に生きることを目指して、ひとや自然を大切に作る子 ○地域で学び、地域の一員として自分のできることを実践する子				
	学校概要	創立 52 周年	学校長 阿部雅子	副校長 宇原 豊	2 学期制
児童生徒数: 754 人 主な関係校: 上の宮中学校, 獅子ヶ谷小学校, 菊名小学校					

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分から進んでチャレンジする力> <自他の違いを認め共に高め合う力> <かかわりを大切に解決できる力>	上の宮中 馬場小学校 獅子ヶ谷小学校 菊名小学校	・自分の可能性を信じ、何事にも全力で取り組む子ども・自分の夢を情熱を持って 語れる子ども・人のかかわりを大切にし、他を思いやる気持ちのある子ども ----- ○小学校に向けて授業公開(6月) ○獅子ヶ谷小学校授業公開(9月) ○小中交流日に生徒会による学校説明と部活動見学(11月) ○中学校教員による小学校との交流(12月) ○ブロックによる部活動体験(1月) ○3月小学校・中学校情報交換

中期 取組 目標	○児童一人ひとりが、自分だけでなく、周りとかかわりを大切にしながら共に生きようとする子どもを育てる。 ・ 教科の楽しさや知的好奇心 の幅を広げ、 主体的に学ぼうとする子ども を育てる。 ・自己肯定感を高め、 自分以外の人や地域とかかわりを大事にしようとする子ども を育てる。 ・ 安全、安心な学校生活 が送れるように、 体力の保持増進 や 心身の健康 を保てる子どもを育てる。 ・ 多様な交流活動、グループ学習 を充実させ、 対話を充実させた豊かな人間関係 が築ける子どもを育てる。 ・ 人権教育 を充実させ、 人の心の痛みがわかる子ども を育てる。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	○自己肯定感を育み、自分という存在を大切にしよう促しつつ馬場小スタンダードを基準に一貫性のある指導を行う。 ○子どもたちの長所に気づかせると共に、子どもたちも相互に長所を認め合うことができるようにする。 ○各クラスで「友達から言ってもらって嬉しかったこと」の取組、掲示、ペアフレンド活動等の異学年交流を行う。 ○人の為にすることの大切さについて人権教育とからめて充実させる。
担当 人権教育推進担当	
生きて働く知	○身に付けた知識を生活の場で実際に使ってみることで実感もてるように工夫する。 ○教科書の学習だけでなくクラスメイトとの関わりを通して、色々なことにチャレンジする力をつけさせる。 ○少人数学習、チームティーチングを効果的に取り入れ、学力の基礎基本の定着を図る。 ○教科書のスタンダードを作成し、6年間を見通した学習計画を立てる。単元ごとの授業にはっきりとした「内容」を持たせる。
担当 研究部、評価・学習担当	
特別支援教育	○特別支援教育に関する教職員の正しい理解と適切な指導を行い、ユニバーサルデザインを取り入れた教室環境を整える。 ○全職員が個別支援学級の児童への理解を深め、一般学級と個別支援学級の児童相互の豊かな交流の場を築く。 ○クラスにおける特別支援が必要な児童を中心に据え、配慮を必要とする児童への対応の仕方を共有し、関わりを通して支援の幅を広げる。 ○教員向けの研修を行い、特別支援教育の理解を深める。また、教育相談を実施し、児童理解を高めていく。
担当 特別支援教育担当	
児童生徒指導	○YPアセスメントの有効活用のために職員が作業できる時間を確保し、指導に活かせるようにする。 ○職員間の連携とチームとしての対応を強化し、きめ細かく迅速な対応をする。 ○教職員のスタンダードの意識統一を図り、打ち合わせや職員会議で情報共有しながら一貫したぶれない指導を実施する。 ○馬場スタンダードの18の約束を徹底し、問題行動の未然防止と早期発見に努める。
担当 児童指導部	
健やかな体	○体力テストの結果を受けて伸ばしたい力を明確にし、全校で目標に向けた取組をしていく。 ○中休みに積極的に外遊びに参加させ楽しみながら体力づくりに取り組ませる。 ○睡眠や食育の充実を図り、規則正しい生活習慣の推進を進め、体と心の安定を図る。 ○1校1実施の定期的な取組として、縄跳び大会を活かす。系統性を意識した体育科カリキュラムの見直しを図る。
担当 体育部・保健指導部	
地域・保護者連携 学校運営協議会	○学習、学習以外の面でも保護者や地域の方の協力を積極的に図っていく。 ○地域行事に積極的に参加し、馬場小の良さを発信しながら良好な関係を築いていく。 ○人とのつながりを通して、児童の力を地域に活かしたり、地域の教育力を学校に生かしたりする。 ○学校運営協議会を設立し、保護者・地域と連携した学校経営を推進し、社会開かれた学校を目指す。
担当 保護者・地域連携担当	
環境を考える学習	○総合・生活(重点)を軸に、児童一人ひとりが考える「ふたばの学習」を充実させていく。 ○自然環境だけでなく社会生活における様々な場面での環境について考える。 ○総合の時間を通して「人・まち・自然」との触れ合いを関連教材から発展的に進めていく。 ○各教科においても自分たちの生活に結びつけて深く考える機会をつくる。
担当 研究部 生活・総合的な学習担当	
一部教科担任制	○教員の専門性や得意分野を生かし、授業力を高めながら児童にとって魅力ある学習づくりを行う。 ○学級担任一人では抱え込まず、複数の目で子どもの変化に気づき、情報共有しながら多くの職員で子どもたちを育てていく。 ○中身の濃い授業を提供することで子どもの知的好奇心を高め、中学校との学習の接続を図る。 ○教材研究の時間の確保や担任の負担軽減を行い、複数で児童の指導にあたることで、子ども一人ひとりの良さを生かしていく。
担当 教務部・学年担当	
いじめへの対応	○教員のアンテナを高くもつことと、自分のクラス以外でも気になることがあれば情報共有することができるチーム力の向上を図る。 ○教師が一人ひとりに向き合い、被害者を守ることが第一となる対応を心掛け、全教職員での早期発見・早期対応に向かうようにする。 ○クラスでは互いの良さを認め合う活動を日頃から取り入れ、児童のコミュニケーションスキルを高める。 ○職員研修を実施し、いじめアンケートや普段の様子から子どもの実態を常に把握し、指導の機会を逃さなような人権意識を高める。 ○休み時間や授業中にフリーで動ける職員を常置させ、子どもをより多くの目で見守るようにする。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	○職員同士でのコミュニケーションを豊かにし、役割を果たしながら組織で動く職場をつくる。 ○負担が一部に集中しない配慮、職員室の明るい雰囲気づくりを行う。 ○若手がリーダーシップを発揮し、ベテランが支える構造をつくり、若手が活躍できる職場にする。 ○メンターチームの充実、学年同士のつながりを大切に学び合う職場をつくる。 ○授業力向上に向けた各教科の研修を充実させ、学習・行動計画の見直し・業務の効率化を図る。
担当 教務部・メンターチーム	